

COOP-JOSO News Letter

2020年11月2回号 発行:常総生協広報G



2020年度活動テーマ「JOSO食材でかんたん・おうちごはん ～食卓から笑顔あふれる未来へ～」
2020年度秋の生協強化月間「つながろうプロジェクト」新しい生協のつながり方

＼つながろうプロジェクト／ 特設ページ公開しました！

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年はほぼ全ての生産者交流会やイベントが中止となっています。そこで9月より「つながろうプロジェクト」と題し、組合員と生産者を結ぶため、生産者の動画や文章でのメッセージを集めたり、複数の生産者によりコラボレーション商品、オンラインでの商品学習会など実施してきました。

そしてついに、10月25日(日)より「つながろうプロジェクト」の生産者の想いがつまった特設ページを公開いたしました。→こちらのQRコードからも特設ページに入れます。



【閲覧の仕方】

①今週配布(11月2回)カタログの1ページのQRコードから閲覧する。



1. 11月2回カタログの左上にQRコードがあります。お使いのスマートフォンをかざしてQRコードを読み取ってください。
2. QRコードを読み取ると、「つながろうプロジェクト」特設ページに入ります。
3. 下にスクロールし「生産者動画」をクリックすると、松永農園さんや他の生産者の動画を見ることができます。

②常総生協ホームページより、「つながろうプロジェクト特設ページ」をクリックする。

1. 常総生協ホームページの「トップページ」を開きます。
<https://www.coop-joso.jp/>
2. 「トップページ」のスライドバナーに「つながろうプロジェクト」がありますので、クリックすれば特設ページに入ります。※スライドバナーのデザインは変更する場合があります。



①QRコードは、11月3回のカタログ表紙・中面にも掲載します。来週以降もぜひご覧ください！

唯一無二 松永農園さんより農薬無散布・化学肥料不使用の「レモン」がシーズンスタートです！

常総生協が、由比の松永さんからレモンを頂くようになって30年以上が経ちました。親子二代、ずっと農薬に頼らない方法で柑橘を栽培し、現在は研究室で農業を学んだ息子さんが三代目としてお父さんと一緒に柑橘づくりを実践しています。そんな松永農園を今回はご紹介します。(写真右端が代表の松永さん、左端が息子さんです)



■古き良き”宿場”に果樹園あり！

無農薬レモンを栽培する松永さんの果樹園は、静岡県清水区由比町にあります。果樹園からは駿河湾が一望でき、温暖な海風がそよぎ、昔から柑橘栽培が盛んな地域でした。また、この地域は昔の東海道の宿場町「由比宿」。築300年近い住宅がまだ街道に残り、宿場町の面影を残します。



■生態系をいかに邪魔しないか

松永農園さんのハウスを見ると、まず驚くのが雑草の多さ。「ハウスの中でも15～20種類の雑草があります」と松永さん。でも、この雑草が重要なのです。雑草と言っても、そこに住みつく虫は多種多様です。たとえば、ヤノネカイガラムシというカメムシの一種の害虫がおり、松永さんのレモン園でも見受けられました。一般の多くは強力な農薬をかけて死滅させるところですが、松永さんは放っておきます。すぐにヤドリバチという目に見えないほどの小さいハチがそのカイガラムシに卵を産み付け 孵化し、結果カイガラムシは死滅してしまうのです。また、**多様な草木が後に腐葉土となり肥沃な土づくりとなり、肥沃な土にはたくさんの生命が宿り、循環を繰り返します。**こうした「**食物連鎖をいかに邪魔しないか**」が一番のポイントです。



■土が柔らかいと木が丈夫に育つ！

松永さんのレモンの木の育て方も重要なポイントで、それは根をとにかく丈夫にさせる事。**根を太らせ、四方に根を行き渡らせる為にも土の柔らかさは重要**です。確かに苗木から3～4年で収穫は可能ですが、レモンの寿命は30～40年。短期的な収穫量よりも、長期的に見れば長い間レモンを収穫し続けられた方が良いです。こうして多少の害虫や環境変化に動じない、松永さん曰く「タフなレモンの木」が育つのです。



■地域が抱える問題と松永農園

「この地域では、私が一番若手になってしまった。今ではほとんどが70代、80代で…」と松永さん。昨今、柑橘栽培をはじめ農業そのものを継続すること自体が厳しい状況になっています。例年の「異常気象」による収穫の不安定さ、里山の荒廃による害獣の増殖と食害、その対策への多大な投資、大規模農業優遇制度等々、農業をめぐる問題は尽きません。

「勤めに出た方がラク」と思う農業後継者が多いのと「取立ては継がせない」先代が多いのも事実です。そんな中、松永農園三代目として若い息子さんが後継することになった事は大きな喜びです。今後も未永く、相互に支え合える関係を築いていきたいと思ひます。応援を宜しくお祈いします！

★★動画もぜひチェックしてください★★

現場でしか見られないレモンの選定の仕方も...!?

日本でも大変稀少な農薬無散布・化学肥料不使用の松永さんのレモン。それを可能にしているのが、15～20種類近い雑草の存在です。天敵がいるからこそ生態系が成り立ち、またレモンも生かされていることがよく分かります。また動画では現場でしか見られないレモンの選定の仕方も撮影されています。



年始のお重おせちは今がチャンス！こだわり創健社のおせち



化学調味料に頼らず
素材を活かしたお重です

家族に「ほんもの」の味を伝えたい
常総生協による
創健社の新春おせち

創健社の新春おせち

11月1回～11月2回の期間は
対象商品3%OFF

毎年恒例、創健社のおせちが今年も早割実施中です(締切：11月2回注文回収週まで)！早割期間は通常の「3%OFF」となります。



(おすすめ)

561002人気急上昇の「伝統ミニおせちセット」10品(重なし)

早割税抜価格**9,118円**

定番の**561001**創健社の和風お重セット(19品)も人気ですが、昨年人気を博したのが**561002**創健社の伝統ミニおせちセット。和風おせちセットの中から代表的な品を詰合せました。一品ずつ素材の風味を活かした飽きのこない味付けです。

冷蔵品のため解凍いらずで、ご家庭でお好みの器にお好きな品を盛付け、楽しみながらお召し上がり頂けます。

※12月1回配布カタログでも通常価格でお申込みいただけますが、ぜひ早割価格中にお申込みください。

石岡鈴木牧場ビンの中身は洗って返却をお願いします



鈴木牧場のヨーグルト・牛乳の販売を開始するときに、ゴミを出さない・環境に負荷をかけないという思いから、製品の容器にリユース瓶を選択しました。最近、写真左のように洗わずに返却されることがあります。**中身を消費したらきれいに洗って返却してください**(ヨーグルトは内蓋をすてて、キャップと共に。牛乳はキャップを外して)。汚れているものは、生協職員が洗い鈴木牧場に返却しています。また職員でもチェックできなかったものは、そのまま鈴木牧場へ戻ってしまいます。

勿論汚れている、いないに関わらず牧場できれいに手洗いして、加熱滅菌し、瓶詰めして、乳製品となりまた組合員の皆様の手に届きます。組合員の皆様もご協力をお願い致します。

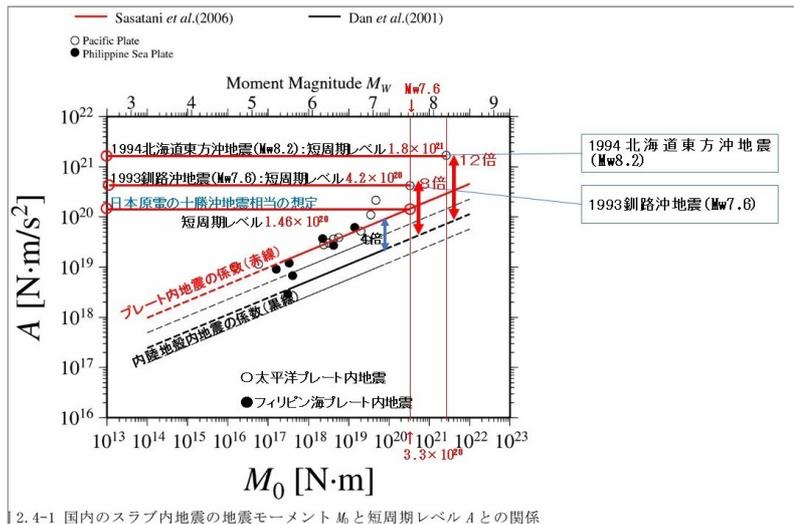
(経緯説明)

常総生協と脱原発と暮らし見直し委員会は2019年10月、茨城県知事と6市村首長に対して「再稼働に同意しないでください」という署名を提出しました。その際、茨城県の原子力安全対策課の職員とも面会して「県が主催するワーキングチーム会合では、パブリックコメントで集めた住民意見を汲み上げて、しっかりと安全性検討を！」と申し入れていました。しかし、「WT(ワーキングチーム)委員会」は、日本原電の不十分な検証、説明を追認してしまっているのが現状です。WTへの働きかけが重要と考え、生協が事務局を担ってきた「東海第二訴訟」での技術的議論も踏まえ、脱原発委員会、理事会にて決議して「意見書」を提出する運びとなりました。

(意見書の内容 ※まとめ文のみ掲載)

- 1) 東北地方太平洋沖地震の発生以前は、過去の限られた観測事実から、日本海溝ではM9の地震は起きないと考えられていましたが、実際はそうではありませんでした。この教訓を踏まえ、限られた観測事実に頼る代わりに、科学的に考えてあり得る地震に備えるという新しい対策に移行しました。地震調査研究推進本部による「日本海溝沿いの地震活動の長期評価」(2019)では茨城県沖の沈み込んだプレート内でも1994年北海道東方沖地震のようなM8.2の地震が発生する可能性は否定できないとしており、ワーキングチームでは少なくともM8.2の地震が敷地の近くで生じた場合の揺れを推定し、それに対して発電所の施設の安全性を包括的に検討していただきたい。2012年4月11日にはインドネシア・スマトラ島北部の西方沖の沈み込む前のプレート内でMw8.6の地震が発生しています。このような規模の地震が茨城沖の沈み込んだプレート内では起きないという科学的説明が可能なのであればぜひ説明をお願いし、それが不可能であるなら、ワーキングチームではMw8.6の地震が敷地の近くで生じた場合の揺れを推定し、それに対して発電所の施設の安全性を包括的に検討していただきたい。

- 2) 日本原電の1993年釧路沖地震を敷地直下に置いた地震動シミュレーションは、震源モデルの短周期レベルが森川ほか(2002)のわずか29%に過ぎず、1.5倍しても43%であり、1993年釧路沖地震相当の地震を想定したことにはなっていません。藤原委員の指摘は、過去の遠くない時期に実際に太平洋プレート内で発生した地震である釧路沖地震と同等の地震が発生した場合の発電所の安全性を確認することであり、釧路沖地震の29%あるいは43%の短周期レベルをもった地震を想定した検討では不十分です。



2.4-1 国内のスラブ内地震の地震モーメント M_0 と短周期レベル A との関係

Mw8.2 あるいは Mw8.6 の地震が敷地の近くで生じた場合を想定し、かつ、震源パラメータとしては1993年釧路沖地震や1994年北海道東方沖地震の際に実際に見られたような380MPaにのぼるアスペリティ (SMGA) の応力降下量をも考慮して揺れを推定し、それに対して発電所の施設の安全性を包括的に検討していただきたい。

- 3) 日本原電の1993年釧路沖地震を震源モデルとした東海第二原発敷地でのシミュレーションは基準地震動策定と同様の地盤増幅率を用いていると思われますが、当該地盤増幅率は信頼性に欠けるとの専門家指摘があり、地盤モデルの検証は、敷地の地震観測記録を用いれば比較的簡単とのこと。すなわち敷地の近くで比較的地震基盤に近いと考えられる観測点で得られた地震動のフーリエスペクトルに地盤増幅率を乗じたものが、敷地で観測された地震動のフーリエスペクトルに一致すれば良いとのことですので、日本原電は第三者が検証できるように敷地観測記録を公開し、ワーキングチームでも適切に地盤増幅率が反映されているかを検証していただきたい。

- ★ 意見書全文はPDFデータにて常総生協ホームページの新着情報にUPしています。
- ★ 次週は10/21(水)に第17回東海第二発電所安全性検討ワーキングチーム第17回会合の傍聴をしてきましたので、その報告を掲載いたします。
- ★ 脱原発と暮らし見直し委員会にて意見書内容の学習会を行う予定です。次回は、11/11(水)13:00です。ぜひご参加下さい。ZOOMでも開催しています。生協にお問い合わせ下さい。